OMC hospital news

大阪医科大学附属病院ニュース

第48号

2017年4月

発　行
大阪医科大学附属病院

◆病院の理念◆
社会のニーズに応える安全で質の高い医療を皆様に提供するとともに良識ある人間性豊かな医療人を育成します。

『かかりつけ医』を持ちましょう

突然ですが、皆さまは“かかりつけ医”をお持ちですか？

病院長　内山 和久

家族みんなのこと、検診結果のこと、健康に向けてどんなことでも信頼して相談ができるお医者さんがいれば嬉しいことです。調子がすぐれない、風邪ぎみといった軽い病気から、手術を必要とするような大きな病気まで、かかりつけ医をお持ちになり病気と向き合うことが、今、特に必要になっています。

本院は大学の附属病院でもあり、国から定められた特定機能病院でもあるため、［高度急性期機能］を果たす必要があります。［高度急性期機能］とは、「状態の変化が激しく、医療ニーズの高い患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する機能」と定められています。高い医療機能を将来にわたり維持し続け、臨床だけではなく、研究、教育機関として高度な医療技術を提供していく責務が本院にはあります。

そして、医療機関は好むと好まざるとにかかわらず、機能別に分類されて、その地域における使命を果たす必要があります。具体的には、急性期機能、慢性期機能、回復期機能など病院が果たすべき機能が分類され、この機能を上手く活用しながら医療を受けていく必要があります。そして、それをつなぐ機能が《医療連携》というキーワードです。

本院とこの医療連携のある医療機関を皆さまにも知っていただくため、連携登録制度を発足して参加を呼びかけてきました（写真参照）。平成29年2月末現在でその加入機関は876機関にのぼります。こうした医療機関には、本院の最新情報を紙面でお知らせしたり、会合を催し定期的に情報交換を行っています。こうした交流を通じて、活発な医療連携にも患者さまにとって不便にならない、また適切な医療が継続できるよう体制づくりを推進しています。

実際に、患者さまとして医療機関を移る場合には紹介状をもって他院へ移動します。この紹介状の中には、これまでの治療の経過・履歴、服薬情報などが詳しく書かれています。本院を受診する場合にも、この紹介状をお持ちになり、さらには紹介元の医療機関からご予約をお取りの上で受診されることを強く推奨いたします。

実はこうしたことをご説明するにあたり、このたび『かかりつけ医リーフレット』を作成いたしました。本院のもつ役割を丁寧にご紹介しております。ぜひ、ご一読いただければ幸いです。

外来や病棟などで、本院での検査や治療が終了した場合には、地域のかかりつけ医をご紹介しております。治療に際しての不安なお気持ちがあれば、ぜひ主治医や看護師にもご相談ください。

そして、もしかかりつけ医をお持ちでない場合には《かかりつけ医相談窓口》として広域医療連携センター医療連携室がございます。ここには、地域の医療機関の情報に精通したスタッフが多数在籍しております。ぜひ、お立ち寄りいただきご相談ください。

よりよい医療を受けて、健康な生活を長く続けるためにも、ぜひかかりつけ医をお持ちになることをお勧めいたします。

かかりつけ医相談窓口（医療連携室）

リーフレット

連携登録制度加入医療機関掲示パネル

新任医師の紹介

平成28年12月1日付で、糖尿病代謝・内分泌内科科長に就任いたしました。一言ご挨拶申し上げます。

糖尿病代謝・内分泌内科
科長　今川 彰久

糖尿病代謝・内分泌内科とは どのような病気を治療するところでしょうか

「糖尿病」を含む「代謝」の病気には、コレステロールや中性脂肪が高くなる脂質異常症や痛風・高尿酸血症、骨粗鬆症などがあります。痛風は「痛風発作」という痛みが知られていますが、他の病気は症状があまりなく、健康診断などで見つかって受診される方が多いのが特徴です。次に「内分泌」の病気とは「ホルモンの病気」のことです。体のいろいろな機能を調節する「ホルモン」の働きや量に異常が生じます。例えば「甲状腺機能低下症」では、喉の前にある「甲状腺」でつくられる「甲状腺ホルモン」の機能が低下し、新陳代謝が不活発になり、寒がりになったり、便秘になったりといった症状があらわれます。

1型糖尿病の治療

ここまであげたのは、糖尿病代謝・内分泌内科で多くの患者さまが来られる病気ですが、それ以外にも患者さまの数は多くないものの診断や治療が難しい病気があります。例えば、糖尿病のなかでも「1型糖尿病」がそれにあたります。当科では、一般的な病気はかかりつけの先生と一緒に診察する体制を整えていますし、他の病院では治療が難しい病気にも対応しています。ご相談は随時受け付けていますので、できれば現在治療を受けておられる医療機関の紹介状を持って受診してください。他の病院で診断のつかない内分泌疾患の治療もどうぞご相談ください。

「就任のご挨拶」

医療管理室
室長　上田 英一郎

平成28年11月1日付で附属病院医療管理室が開設され、その初代室長を拝命しました上田でございます。

大学病院は、多様化する医療の変革のなかで、高度で安全な医療を地域に提供する特定機能病院としての役割が求められています。当医療管理室は、医療安全に配慮した医療の質の向上、ならびに院内での適切な保険診療の教育を行うことを目的として設置されました。わが国では1961 年に国民皆保険制度が導入されて以降、今日では世界最高レベルの平均寿命と保険医療水準を実現しており、国際的にも高く評価されています。しかし、このシステムを維持するためには、医学生および医師に対する保険診療の教育が不可欠と考え、当院では全国に先駆けてこのような教育を行う部門を設置いたしました。また医療管理室では、高難度新規医療技術および未承認新規医薬品の導入に関する業務も担当し、これらが適切なプロセスを踏んで安全に提供できるように体制を整えております。

医療管理室は、附属病院において、より安全で質の高い医療が提供できるようサポートしたいと考えています。

平成29年度　市民公開講座　開催予定

第1回	平成29年	5月20日(土)	「泌尿器がんに対する大阪医大でのロボット支援手術の現状」	泌尿器科学教室	准教授	稲元 輝生
第2回		6月17日(土)	「手術麻酔について」	麻酔科学教室	助教授	日下 裕介
第3回		7月29日(土)	「知っているようで知らない緑内障」	眼科学教室	講　師	植木 麻理
第4回		9月16日(土)	「本邦における産科医療の現状と課題」	産婦人科学教室	講　師	藤田 太輔
第5回		11月18日(土)	「胃もたれ、胃痛、むかむか！ それは、機能性ディスペプシア？」	内科学Ⅱ教室	准教授	富永 和作
第6回		12月16日(土)	「口の中にできる腫瘍」	耳鼻咽喉科学教室	講師(准)	東野 正明

市民公開講座

平成29年1月21日開催

腎臓を守ろう

大阪医科大学内科学Ⅲ教室　腎臓内科　森 龍彦

1）腎臓の存在意義は？　腎臓を守る意義は？

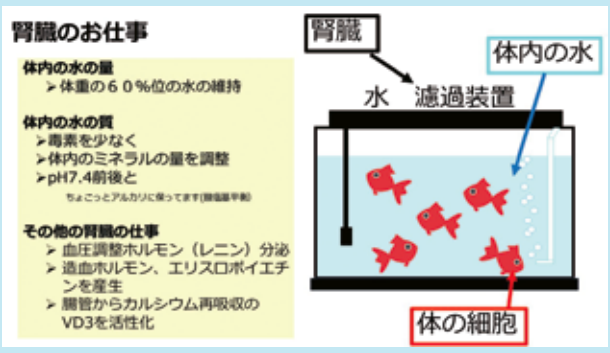
体の中の細胞は、体重の約60％もある水に浸かっています。細胞が浸かっている水をきれいにしているのが腎臓です。環境が良いことで細胞たちは、皆さんが元気でいられるようがんばって仕事をしてくれます。すなわち、腎臓が弱ると、元気でいられなくなります。

2）症状がなかったら放置していても良いですか？

腎臓が悪くなっても、まず痛みはありませんし、透析直前まで尿量が減ることも少ないです。放置され、気がつくと大変なことになっていることが多いです。早期異常発見、早期精査、早期に弱っている腎臓を守る手立てを考えることが大切です。検診で尿蛋白±程度を何度か言われたり、腎機能低下の進行を指摘された場合は、放置せずに、かかりつけ医に相談して、専門医への紹介をお願いしてください。

3）腎臓が悪いと言われたのに、腎臓の薬をだしてもらえないのですか？　スイカを食べたら良いと言われたのですが？

腎臓はいろいろな仕事しているので、一つですべての腎臓の異常に効く薬はないです。必要に応じて、腎臓の負担軽減する降圧薬、できなくなっている仕事を補う薬、免疫抑制薬などを組み合わせて治療します。腎機能が悪くなると、いらなくなったものを外に出しにくくなります。腎機能低下の人がスイカを多く食べると高カリウム血症（ミネラルの異常）をきたし、生命リスクに関わる不整脈がでることがあります。一部のサプリメントもリスクがあります。余計なことはせずに、気楽に、ストレスを減らして、でも、少しは気にしながらみていくのが、腎臓を守るのに良いのかもしれません。



小児病棟へ“笑顔と子ども時間”を届けに、クリニクラウン訪問

大阪医科大学附属病院小児病棟には、赤ちゃんから15歳までのさまざまな子どもたちとそのご家族が日夜病気と闘っています。入院中の子どもたちに“笑顔と子ども時間”を届ける「認定NPO法人日本クリニクラウン協会」は、特別な研修養成したクリニクラウンを全国の病院に派遣してくださっています。先日、本院へも念願の“ギータヤ”と“きゃしー”という2人の赤いお鼻をつけたクリニクラウンがきてくださいました。子どもたちは2人の笑顔に癒され、最初はチョッピリ緊張していましたがすぐに笑顔になり、一緒に踊ったり歌ったりお皿回しをしたり、お手紙をもらったりして、本来の子どもらしい思い切り笑顔になる時間をプレゼントしていただきました。子どもたちだけでなくご家族や医療者にも笑顔を分けてくれて、楽しい幸せな時間を過ごすことができました。

小児病棟看護師長　川上 和美

（参考）認定NPO法人　日本クリニクラウン協会　事務局
HP：http://www.cliniclowns.jp

看護スペシャリスト
専門看護師・認定看護師の活動　Part 10

腎臓病と共に自分らしく生活できるように支援します。

慢性疾患看護専門看護師
井上 智恵

慢性疾患看護専門看護師の役割は、高血圧や糖尿病のように慢性に経過する病気と共に生活する患者さまに対し、病気の管理や療養支援を行うことです。現在、全国で149名が慢性疾患看護専門看護師の認定を受けていますが、各々専門分野があり、私は主として高血圧や慢性腎臓病の患者さまの療養支援をしています。

近年、透析や移植を必要とする末期腎不全の患者数が増加していることから、より早期からの腎臓病の治療が重要となっています。私は、これまでの腎臓病の患者さまとの関わりのなかで、「もっと早くから何とかしておけば、透析にならずにすんだのに」「どうしてもっと早くに腎臓が悪いって言ってくれなかったんですか?」という思いを何度も聞きました。腎臓病は自覚症状が現れにくく、症状が現れたときには透析が必要な時期になっていることがあります。症状が現れていない時期にこそ、腎機能を維持するための療養行動が必要ですが、それを継続することが難しいのも現実です。本院では、医師、薬剤師、栄養士と連携を図り、腎臓病の療養生活に関する知識を習得するために教育入院を行っています。また、腎臓病看護外来を開設し、普段の生活の中で心配なことや気になることをお話していただきながら、腎臓病と共に自分らしく生活していけるようにサポートも行っています。気になることがありましたら、どんな些細なことでも構いませんので、7号館1階内科外来にご相談ください。

慢性腎臓病看護外来
【診 療 日】月・木曜日（予約制）
【受付時間】9：00～16：00
【問い合わせ先】7号館1階内科外来

平成29年度 肝臓病教室開催予定

本院では肝臓病についての理解を深め、日常生活に対する疑問や病気に対する不安を解消することを目的に、肝臓病教室を開催しています。お気軽にお越しください。

◆時間／15：00～16：00
◆場所／第11会議室（病院西管理棟4階）

無料 申込不要

		内容	講師
第1回	平成29年 4月13日(木)	肝臓の持つさまざまな働きについて	医師
		肝臓に対するお薬の話	薬剤師
		今日から実践できる肝臓に良い食事	栄養士
第2回	平成29年 6月8日(木)	肝硬変の治療	医師
		肝臓が悪いときの症状とその対策	看護師
		肝疾患に対する指定難病の助成と身体手帳	MSW
第3回	平成29年 8月10日(木)	肝細胞がんに対するいろいろな治療法	医師
		肝臓治療後の生活について	看護師
		B型肝炎、C型肝炎、肝細胞がんに用いる薬剤とは	薬剤師
第4回	平成29年 10月12日(木)	栄養と肝臓について	医師
		肝臓にやさしい食事とは	栄養士
		肝臓を助ける栄養療法	薬剤師
第5回	平成29年 12月14日(木)	意外と多いB型肝炎ウイルス感染症	医師
		ウイルス性肝炎に対する助成	MSW
		肝臓を守る食べ方・働かせる食べ方	栄養士
第6回	平成30年 2月8日(木)	C型肝炎ウイルスの新しい治療	医師
		肝炎治療における副作用と注意点	看護師
		ウイルス性肝炎に対する助成	MSW

※都合により予定が変更になる場合があります。

お問い合わせ／肝疾患相談支援センター
072-683-1221　内線2923

情報コーナー

災害訓練を実施しました

平成29年1月30日（月）夜間帯において、高槻周辺で震度6強の地震発生を想定し、災害対策本部の立上げ、各部署からの被害報告、通報連絡、避難誘導、救出活動、被災者受入を行うなど、災害訓練を実施しました。

訓練を実施することで、さまざまな問題点が洗い出されます。医師・看護師・技術職員・事務職員それぞれが自分の役割りを再認識し、限られた人員と医療資源をいかに有効に活用できるか、チームワークだけでなく、指揮命令がしっかりと行えるかなどが災害対策のなかで鍵を握っている大きなものと感じました。

今後もさらに防災教育・訓練等を充実させ、本院職員の災害対策への意識向上を図り、地域住民の方々に役に立てるよう努力します。

個人情報保護委員会講演会

弁護士の浜本光浩先生をお招きし、病院にかかわる個人情報の取り扱いについて講演をしていただきました。具体的事例が多く示され、とてもわかりやすい説明であったと大変好評でした。講演会に参加した職員はあらためて、個人情報の取り扱いの重要さを認識しました。